

令和元年度 行動障害研修ワーキング 検討状況報告書

令和2年1月31日更新

<p>ワーキング メンバー</p>	<p>放課後等デイサービス事業ピュアはーと 峯森 子ども家庭センター 若井、立川 福祉課障害支援係 鈴木 事地域生活支援センター 疋田 事長岡市障害者基幹相談支援センター 高橋、布川</p> <p style="text-align: right;">※事は事務局</p>
<p>取り扱う課題</p>	<p>行動障害のある児童を受け入れる事業所が少ないという課題から研修を行い、行動障害への理解を深め、受け入れ可能な事業所を増やす。</p>
<p>取組方針</p>	<p>平成30年度に実施した情報交換会の意見をもとに、情報交換会を開催する。</p>
<p>具体的取組</p>	<p>平成30年度に実施した情報交換会で出た意見をもとに、どのような研修会を行うか協議し開催する。</p>
<p>開催日</p>	<p>取組・検討内容</p>
<p>【第1回】 令和元年6月6日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の情報交換会で出た意見をもとに、今年度開催する研修会の内容や方法について検討を始めた。 ・7月、8月で研修内容等を大まかに決めていく。 ・ワーキングは毎月開催し、研修の内容等が決定次第、頻度を減らす。
<p>【第2回】 令和元年7月2日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のスキルアップの他に、受け入れができない理由が他にもあることを確認。具体的には重度障害者支援加算の要件が厳しく認定されないため、重度の児童を受けても事業所にメリットが少なく断らざるを得ないことや、予約に伴うキャンセル問題があがる。この2点に関しては、子ども家庭センター主催の児童のサービス提供事業所と相談支援事業所を対象とした情報交換会等を活用できないか検討していく。 ・研修内容としてはブラッシュアップではなく昨年度同様とする。研修会のニーズがあるようであれば今後は、ワーキングが主催するのではなく、各法人や事業所にお願いする形が理想。
<p>【第3回】 令和元年7月24日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実践報告を児と者それぞれに依頼し、後半のグループワークも児と者で分けて、より理解や活発な意見交換ができるようにする。 ・児、者ともに実践している事業所へ発表の依頼をしていく。 ・今後のスケジュールを確認。研修会は11月頃を予定し、9月の運営会議で承認いただき案内文を発送、10月中旬にはワークのグループ決めを行う。
<p>【第4回】 令和元年8月28日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・11月7日(木)AMにトモシア3階多目的ホールで開催。 ・実践報告は児童発達支援事業所あすなると、社会福祉法人小千谷北魚沼福祉会の障害者支援センターひだまり工房の2事業所。※市内で行動障害に対応する事業所へ依頼をしたが断られたため、実践実績のあるひだまり工房へ依頼した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかける事業所は昨年度同様で、生活介護、日中一時支援、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、総合支援学校、高等総合支援学校、放課後サポート事業運営委員会、相談支援事業所。 ・9月中に2事業所へ改めて依頼のために訪問し、具体的な内容をつめてくる。
【第5回】 令和元年10月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・参加メンバーを確認し、グループワークの準備と、研修会の最終確認を行った。
【第6回】 令和元年12月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・11月7日の研修会のアンケートをもとに、振り返りを行った。
【第7回】 令和2年1月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の部会の振り返りを行った。 ・2年間の研修を通して、地域課題が生じた当時より、事業所や従事する職員が増えたこと、徐々に行動障害やマンツーマンの対応のスキルがついてきたこと等の背景により、利用につながらないケースが減少していることを確認。そのため研修会ワーキングとしては終了としたい。 ・次年度以降は、ワーキングという形ではなく事業所同士がつながりを持ち、スキルアップができる機会を持てると良いと考える。
今後の検討の方向性	
運営会議への伝達事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会を通して効果を確認できたため、ワーキングとしては終了としたい。